



こんにちは

村田けい子 です

2017
6.16
No.106

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

五無齋保科百助生誕150周年記念講演

6/11老人福祉センター

講師 井出 孫六 氏 盛大に開かれる

「今に生きる五無齋 —信州の明治を支えた人—」のタイトルで井出孫六氏が1時間の講演。

最初に竹花初雄会長によるご挨拶がありました。



「多くの分野で時代をリード、身の丈5尺6寸、20貫というがっしりした体格で信州の明治を支えた人である。」

「今回の講演に当たり、佐久教育会がまとめた全集を再読したが、優れた本」と紹介し、「被差別部落の子どもも本校舎で勉強させるなど、人権感覚に優れ、断固として実行した実践の人であった。」

自らも大変な勉学で当時の知識を修め、時代を切り拓くには「教育の力が必要」と見定め、本を集め、図書館づくりに奔走する。教員をやめた後は東京に荷車を引いて筆や硯などを仕入れ、これを引いて、徒歩で山を越えて長野県中を歩き、行商しながら、石を集め、植物標本や織物標本などを集めて、実業を興す指導をするなど、八面六臂の大活躍であった(村田の概略)など、この時代を切り拓いた精神、信念をもって、困難があってもくじけずに進むこの精神をこそ、継いでいきたいものだと思いました。

来賓として、米村町長と佐久教育会・小林校長がご挨拶。佐久教育会に残した足跡は大きいと語りました。



閉会のごあいさつ、土屋正一先生



パネルに見入る参加者

今日を迎えるにあたり、五無齋さんが、旗を立てて行商した荷車「火の車」と、鉱物採集の折にまとった赤ゲット(毛布)の色をイメージした赤い色、そして五無齋直筆のサインを旗にしました。



私ごとではありますが、私の祖父、宗三郎が、五無齋さんの小学校卒業の最後の年の担任であり、聡明な、また元気の良い子どもであった」と、よく話をしておりまし

生誕150周年記念講演会に当たり、3つの新資料が明らかとなりました。

①、100年ぶりに、五無齋さんが彫り付けた九曜 紋が発見された事。

②支援者・理解者であった吉村源太郎氏にあてた手紙が2通発見されたこと。

③立科町の合併前の姿である横鳥村の歴史、横鳥村史が発見され、そこに「授業生」としての記述があり、教鞭を取っていた日時が明らかになったこと。

150周年の記念に相応しく、新資料がお示しできました。



ひと言も聞き漏らすまいと聞き入る参加者。200人を超えて参集。



イモムシ?



今週のパチリ

本物そっくりのイモムシ君、実はこれ、どんぐりの帽子の部分を集めて中にゴムを入れて作ったもの。ぐにゅぐにゅ曲がって本物みたい。どちらの方向にも曲がるんです。おもちゃとしても遊べます。とってもよく出来ているんです。塩沢のMさんの作品です。7月17日に行われる環境フェアにも手作りできる何か面白いものを考えているそうです。楽しみですね。それにしてもよくできていますね。

★町民活動こそ、支援を

— 広報活動での支援を—

県や町の支援金があることが財政的な基盤となり町民によるさまざまな活動が盛んにおこなわれていますが、困っているのが広報活動です。

町の後援があっても町の広報には載せてもらえず、有線放送への支援もない。そこで

1、町庁舎内に、町民活動を紹介するブースを設け、そこにチラシやポスターなどを掲示して広く知らせる場所を作るべきではないか。

2、広報へ「町民活動のページ」とか「交流の広場」などのコーナーを設け、町内各地で行われている伝統行事やイベントの紹介をすべきではないか。

3、有線放送は、町が年間契約しており、少なくとも町が後援したイベントについては、無条件で放送すべきではないか。と迫りました。

町は「どのイベント、催しを載せるかなど基準を設け、改善に向け検討したい」と答えました。

★ふるさと交流館の在り方にかかわる問題。町の物産の紹介を！

この度リニューアルオープンしたふるさと交流館。移住促進センターとしての役割が強化されましたが、町の物産の展示、販売コーナーが撤去されました。

そこで

ふるさと交流館は旅人が立ち寄り休憩する中で、町の歴史や文化を紹介し、特産品のアピールをすることでお土産として持ち帰ってもらう経済効果を生むという目的があります。旅人は重い荷物になるものを避ける傾向にあると聞くが、せめてリンゴジュースやニンジンジュースなどを提供し、菜ないろ畑などの産直施設に誘導するなどの取り組みが必要ではないか、交流館の設置目的からしても必要、と迫りました。

町長は「『たてしな屋』の判断で撤退を決めたので、そちらに言ってもらいたい」と、責任逃れの答弁をしました。

因みに町長は「たてしな屋」の社長です。交流館二物産を置かないのでは町として、特産品のアピールや経済振興を進めるという目的が果たせないのではないかと考えます。

皆さんはどうお考えでしょうか。

★就学援助制度 新入学準備の費用を、間に合うようにホームページの改善

を。6月の質問の後、どのように準備が進んでいるのか質問。

《教育次長》入学準備金は、来年2月に翌年度分を支給する方向。ホームページは質問日当日更新した。と回答しました。

スタンディングのお知らせ
当分毎週金曜日
午後5:30~6:00



6月議会より
報告あれこれ



★農業委員会委員さん、13名が出揃う。議会最終日に同意案件で提出される。女性が2人。(女性は商工会・茂田井より)

★2 道の駅、トイレのデザイン最終決定へ



農ん喜村で現地を確認。

トイレの位置は、耕福館へ上がっていく坂道に近い場所。

女子トイレ／男子トイレ 小4大2
多目的トイレ1。現地に直接テープを張って位置確認をし、議会としても了承しました。

私も、女子トイレに赤ちゃんを座ら

せるスペースをと要望しました。

ここに道の駅ができることで24時間のトイレと休憩所、道路情報や町のイベント情報などを受け取ることができ、玄関口として賑わいを生む効果が期待されます。

また、道の駅の名称を募集しています。6月15日〆切。

23日の選考委員会で名称決定。ふるってご応募ください。



★3 農業振興公社たてしな屋の事業報告より

- ・立科ブランドの売り上げ 約690万円
- ・ふるさと納税返礼品
リンゴ3兄弟はじめセットで1,237箱
- ・立科米 20kg 5,176件
1俵当たり、約1.3万円の値段で取引

- ・荒廃地の活用、そば栽培
数回のそば祭りを実施。
- ・馬鈴薯の作付け 約3,500株
都市と農村の交流事業の芋ほりに。

以上、農産物売り上げ 890万円
ふるさと納税/1,364万円
委託・補助事業/330万円

管理費・経費を引いて 121万円の純益